

清華大学浩華幼稚園訪問報告書

村上祐子(東北大学大学院理学研究科国際交流推進室)

要旨

当報告書は、この文脈での大学学内保育施設の調査の一環として、2008年10月20日午前に清華大学浩華幼稚園を訪問調査した成果である。清華大学浩華幼稚園は清華大学教職員の子弟の教育を中心とした幼稚園である。教職員子弟・(一時滞在研究員を含む)大学紹介なら誰でも入園でき、外部からの入園も認めているため、在籍園児数は700人程度と大規模である。東西の教育思想を融合した総合教育を目標としており、外国語教育もおこなわれるなど教育レベルは高い。

序

現在、世界各国が高度人材確保を目的とした留学生獲得戦略を繰り広げている。とくに中国では2007-2011年にかけて優秀な学生を海外の博士課程・共同学位プログラムに国費で5000人派遣する計画があり、各国の留学生獲得の主戦場となっている。日本では留学生30万人計画が提唱された結果、各省庁が連携してカリキュラム、査証、宿舍などさまざまな側面からこれまで以上に留学生関係施策に力を入れて、今後の整備が期待される。しかしながら、留学生や海外からの研究者のワーク・ライフ・バランスという観点は、欧米では学内保育施設が研究者獲得戦略の一環とみなされているとされているのに対し、日本でも東京大学がこの流れにのっているが、それ以外の日本国内の大学では子育て期間にある若手研究者の研究支援は日本人対象すら発展途上である。

実際、研究者にとっては学内保育施設の有無は研究実施機関選定の重要なポイントとなる。しかし、たとえば日本など他の国と年度開始月が異なる場合に年度途中からの利用が困難であるような運用では、海外からの研究者獲得効果は限定的であると考えられる。さらに、また数ヶ月程度の短期の研究・学生交流は今後増えると思われるが、短期の利用希望を受け入れられない施設であれば結果的に利用されないはずだ。

当報告書は、この文脈での大学学内保育施設の調査の一環として、2008年10月20日午前に清華大学浩華幼稚園を訪問調査した成果である。

背景

研究活動の国際化を受けて、海外からの研究者・留学生獲得にむけたさまざまな分析が行われ、それに基づく提言を受けた政策が打ち出されているが、研究者受け入れ態勢を整える際に研究者のワーク・ライフ・バランスという観点は現在のところほとんど見られない。日本国内の研究者についてもワーク・ライフ・バランスへの配慮は端緒についたところである。一方で、すでに欧米の研究者は研究者・学生とも任用交渉時に配偶者のキャリ

ア継続や子どもの教育への配慮の有無が重要なポイントになっている。このことは、アメリカ・カナダにおける学内保育の状況をまとめた生田・尾崎（2008）でも、人事関係部署だけでなく、教務関係部署が学内保育の関連部署とされているケースがあることから読み取れる。また中国は、現在・今後とも留学生の最大の供給国であり、今後は研究者の供給国となることも予想される。いずれの場合も研究者の子どもに対して日本での保育体制が欠如する場合は、今後の研究者交流・共同研究等の実施の障壁となりうる。

国境を越えて移動する研究者・学生にとっては学内・学外を問わず保育施設の有無は研究実施機関選定の重要なポイントとなる。また年度途中での保育開始、一時保育など、運用形態も研究者交流に大きな影響があると考えられる。

この予想のもとに、現在の各国の大学の研究者や（留学生を含む）学生対象の保育施設の現状分析を行うことが必要である。子どもの視点での国境を越える移動についての一般的な調査はあるが海外の研究者・留学生の子ども育成に着目した先行研究はほとんどない。

この調査報告書は、生田・尾崎(2008)で行われたアメリカ・カナダの大学の保育施設の実地調査を補完するものである。今後の調査では、生田・尾崎(2008)の調査項目を踏襲するとともに新たな調査項目を追加して保育者および保育施設運営者、また可能ならばサービス利用者である子どもの行動観察と保護者への聞き取り調査を行い結果を分析していく。

生田・尾崎の調査項目

予備調査項目：(1) 教育理念 (2) 大学組織内での位置づけ (3) 目的・役割

訪問調査項目：(1) 施設の設置理由および沿革 (2) 施設の役割 (3) 施設の運営実態(大学や保護者との連携) (4) 施設の教育カリキュラム (5) スタッフの資格および教育 (6) 施設が直面する課題や問題

当報告書では、以下の項目を追加して、特に一時滞在の研究者や留学生の子どもの状況に着目する。

当報告書の追加項目：

予備調査項目：(1) 一般的な保育状況 (2) 周辺自治体・民間等学外サービスの有無および利用資格・利用単価等

訪問調査項目：(1) 受入年齢 (2) 利用単価および収入による利用単価クラスの有無 (3) 一時滞在の研究者(数日、数週間、数ヶ月～1年)の子供の受入有無 (4) 一般学生の子供の受入有無 (5) 留学生の子供の利用状況 (6) 学会時保育への対応有無

中国の保育事情

中国では一般的に大学も含めて 24 時間の職場保育が行われているが、近年は西欧型の日中のみの保育も増加している(塘ほか 2002)。また、乳児期・幼児期を通して祖父母の関与が大きく、自治体等の保育サービスよりも祖父母による家庭内保育を選ぶケースも多い。

清華大学現地調査

2008 年 10 月 20 日午前、清華大学浩華幼稚園を訪問し、晏紅 清華大学浩華幼稚園副園長に対応していただいた。

この園は、1948 年、清華大学教員施嘉煬の妻である田魏文ら 10 名の教員の妻が協力して設立された。浩華は当時のスポンサーの名前にちなんで名付けられた。当初 30 人ほどの規模だったが、1965 年までには 1000 人以上となり、23 の建物で運営していたが、1966 年文化大革命がはじまると縮小された。その後再興され、1990 年代には保育・教育・研究・エリート養成の四つの柱で運用されるようになった。現在の規模は 700 人程度である。大学組織での位置づけは附属小学校・中学校・高等学校と並んで附属機関となっている。また、北京市一級幼稚園、保育学校実習施設等に指定されている。

目的と教育理念は中央ホールに掲示されている。幼児の体・知能・道徳・美のバランスのとれた成長を目的とし、瑞吉欧・陳鶴琴の思想のもと、東洋と西洋の教育を融合・「五指活動」(体育・知育・道徳・美術・音楽)・多言語教育・社会に即した教育の 4 点を教育理念とする。

構内は、活動室 11、寝室 11、工作室、図書室、多用室、医務室、調理室、会議室、事務棟、園庭 3 からなる。各年齢 3-4 クラスで編成されている。



園庭に面したスローガン「毎日1時間運動して、50年健康に仕事して、一生幸福になる」



2-3 歳児クラス居室



4-5 歳児クラス居室

左図では掲示の下に子供が自分で水を何杯飲んだか記録するようになっている。自律心養成目的とのこと。



4-5 歳児クラス寢室



園庭



制服はないが、かばんは標準のものがある。

受入年齢・利用単価・スタッフの資格

幼稚園の受入年齢は 2.5 歳から小学校入学までである。育児休業は通常半年であり、その後は祖父母により養育されるケースが普通である。複数の保護者によれば 2.5 歳以前には施設に預けるのはためられるという。

伝統的には 24 時間の職場保育が行われていたようだが、現在は提供していない。

利用単価は 1000 元/月である。同程度の教育内容とすれば比較的単価が抑えられているとのことである。なお、保護者が清華大学教職員の場合は割引がある。また 2 人利用中（4, 2 歳）の保護者によれば、清華大学教職員の子弟であると申請すれば入園可能だが、祖父母が同居の場合審査がある。また教職員子弟の場合にはそのまま附属学校に持ち上がる。外部からの入園の場合、入園時には審査があり、附属学校に進学の際もそれぞれ審査がある。

スタッフの資格は 2000 年から強化され、4 年以上の大学教育による幼稚園教諭資格が必須となった。

活動内容

英語教育校に指定されており、3 歳から週 1 回外国人教員による英語教育がおこなわれている。

「毎日 1 時間体を動かせば 50 年健康に働けて一生幸せになる」とスローガンが張っ

であるように、体育活動には力点が置かれている。訪問時には2歳児が園庭の円を歩いてバランス感覚養成、年長児が卓球を行っていた。また会議室には碁盤もあった（中国では囲碁等の知能ゲームは体育とみなされる）。

海外の研究者利用

清華大学に一時的に滞在する研究者の場合、大学の紹介があれば幼稚園を利用でき、すでに受入実績もある。また、学生の利用は規則上可能であるが、利用実績はない。

総括

定員が非常に多く、教職員子弟であれば無条件に利用が可能である点と研究者利用が可能である点が注目される。保育・教育内容も充実しており、外部からの関心も高い。

謝辞

清華大学浩華幼稚園の晏紅副園長には大変親切に対応していただき、詳しいご説明をいただいた。幼稚園のみなさまには、見慣れない外来者にもかかわらず普段の生活をみせていただいた。また清華大学留学生オフィスの章燕項目主管と張健副主任には訪問に際してご手配いただいた上に、東北大学大学院理学研究科物理専攻鞠晶助教とともに幼稚園に同行し、中国語を日本語と英語に通訳してくださった。お世話になった皆様に篤く御礼申し上げます。

参考文献

生田久美子編；辻村みよ子監修(2005)「ジェンダーと教育：理念・歴史の検討から政策の実現に向けて」東北大学 21 世紀 COE プログラムジェンダー法・政策研究叢書 東北大学出版会

生田久美子・尾崎博美(2008)「ジェンダーから見る高等教育へのユニバーサル・アクセスーアメリカ・カナダにおける大学附属保育施設の訪問調査を通して」報告書

塘利枝子・高向山・童昭恵(2002)「日本・中国・台湾の保育者が期待する子ども像---子供の「はずれた」行動への保育者の対応に焦点を当てた予備考察」平安女学院大学研究年報 3:57-68